

中学歴史プリント（過去問類似）

平安時代

名前

得点

/8

問1 国風文化の時期には、京都府宇治市の池のほとりに建てられ、左右対称の翼廊と屋根の上の鳳凰が特徴的な平等院鳳凰堂のような建築が見られるようになりました。このような文化が栄えた時期に成立した文学作品とその作者の組み合わせとして、適切なものはどれですか。（2017年 長崎県公立入試 類似）

1. 紫式部 — 『源氏物語』 2. 清少納言 — 『方丈記』 3. 井原西鶴 — 『浮世草子』 4. 阿弥陀如来 — 『浄土真宗』

問2 平安時代の政治の変遷について述べた次の文のうち、白河天皇が行った政治体制の仕組みとして正しいものはどれですか。

（2024年 愛知公立入試 類似）

1. 天皇が位を退いて上皇となった後も、特定の役職に縛られずに政治の主導権を握った。 2. 藤原氏が娘を天皇のきさきに送り込み、その子供が天皇になると摂政や関白として政治を行った。 3. 源頼朝が征夷大將軍に任命され、守護や地頭を各地に配置して軍事や警察の権限を握った。 4. 唐の律令を模範とした法を整備し、全国に国司を派遣して土地と民を直接支配した。

問3 平安時代中期、藤原氏が自身の娘を天皇の妃（きさき）とし、その間に生まれた子が天皇になると、幼少期には摂政、成人後は関白という職について政治の実権を握りました。このような政治体制を何といいますか。（2020年 神奈川県公立入試 類似）

1. 摂関政治 2. 院政 3. 執権政治 4. 親政

問4 800年代後半から1000年代半ばにかけての政治統計において、1017年前後には公卿の大部分が藤原氏で占められるなど、特定の氏族が圧倒的な力を持っていました。この藤原氏の全盛期を築き、のちに平等院鳳凰堂を建立した藤原頼通の父にあたる人物は誰ですか。（2021年 秋田県公立入試 類似）

1. 藤原道長 2. 藤原不比等 3. 藤原良房 4. 藤原基経

問5 平安時代中期に発達した文化について、その成立背景や特徴を説明した文として最も適切なものはどれですか。（2026年 神奈川県公立入試 類似）

1. 遣唐使の停止により大陸との直接的な交流が途絶えたことで、日本の生活や感性に合わせた独自の文化が発達した。 2. 聖武天皇の時代に、仏教による国家の安定を願って、大陸の進んだ技術や国際色豊かな文化が導入された。 3. 下剋上の社会風潮を背景に、大名や豪商たちの権力を象徴するような豪華で壮大な文化が開花した。 4. 中国の宋との貿易が盛んになったことで、禅宗とともに新しい形式の喫茶の習慣や水墨画が伝えられた。

問6 10世紀初頭の周防国（現在の山口県）における人口統計によると、働き手となる17歳から65歳の層において、男性66人に対し女性が136人と、自然な状態ではありえないほど男女の数に極端な偏りが見られます。このような戸籍の偽装が行われた理由として、当時の税制度の仕組みから説明したものと最も適切なものを選びなさい。（2024年 山口公立入試 類似）

1. 男性のみに課せられていた調や庸といった重い税負担を逃れるため、戸籍上で性別を偽ったから。 2. 女性にのみ公地公民制に基づく口分田が与えられていたため、土地を得ようと性別を偽ったから。 3. 収穫した稲の一部を納める「租」が男性のみに課せられていたため、その負担を回避しようとしたから。 4. 防人などの軍役が女性にのみ課せられていたため、男性が女性の身代わりになろうとしたから。

問7 西暦804年、空海が遣唐使とともに唐へ渡った頃、日本国内で行われていた政策や出来事として正しいものはどれか。（2017年 北海道公立入試 類似）

1. 坂上田村麻呂が征夷大將軍として東北地方に派遣され、支配地域を広げた。 2. 聖徳太子が冠位十二階を定め、家柄にとらわれない人材登用を行った。 3. 承久の乱ののち、朝廷を監視するために京都に六波羅探題が設置された。 4. 大名を厳しく統制するために武家諸法度が制定され、違反者は処分された。

問8 10世紀初めの戸籍の記録では、成人男性の登録数が女性に比べて極端に少なくなっている現象が見られます。例えば、当時の阿波国の戸籍において、ある一族のうち男性は全年齢で6名（11歳から40歳は0名）であるのに対し、女性は全年齢で25名（21歳以上も多数）と記録されているような事例です。このような不自然な男女比の不均衡が生じた背景として、最も適切な説明はどれですか。（2018年 徳島公立入試 類似）

1. 租・庸・調や防人などの重い負担を逃れるため、本来は男性である者を偽って女性として戸籍に登録したから。 2. 律令政府が、墾田永年私財法によって私有地を広げた有力な女性農民を優遇し、戸籍に優先的に記載したから。 3. 度重なる飢饉や戦乱の影響により、体力の乏しい成人男性の死亡率が女性に比べて著しく高かったから。 4. 班田収授法において、女性に与えられる区分田の面積が男性よりも広く設定されており、家計を助けるために女性の登録を増やしたから。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 紫式部 — 『源氏物語』	平安時代中期には、仮名文字が発達したことで女性による優れた文学作品が数多く生まれ、紫式部は貴族社会を描いた長編小説『源氏物語』を著しました。同じ時期、死後に極楽浄土へ生まれ変わることを願う浄土教の信仰が広まり、その象徴として阿弥陀堂である平等院鳳凰堂が建立されました。
問2	答え 1 天皇が位を退いて上皇となった後も、特定の役職に縛られずに政治の主導権を握った。	白河天皇が始めた院政は、天皇が譲位して上皇（院）となり、摂関家の役職である摂政・関白を介さずに政治を動かす仕組みです。これにより、それまで全盛を誇った藤原氏の摂関政治を抑え、独自の軍事力（北面の武士など）を組織して支配を強めました。
問3	答え 1 摂関政治	摂政は天皇が幼いときや女性であるときに代わって政務を行い、関白は成人した天皇を補佐して政務を司る役職です。藤原氏はこれら二つの官職を独占することで、天皇に代わって政治を主導しました。この仕組みは藤原道長・頼通の親子が権勢を振るった時期に全盛期を迎えました。
問4	答え 1 藤原道長	1017年前後は、藤原氏の権力が絶頂に達した時期にあたります。藤原道長は、自分の4人の娘を次々と天皇の后にし、3人の天皇の外祖父（母方の祖父）となって摂関政治の全盛期を築きました。「この世をば 我が世とぞ思ふ…」という歌でも知られています。
問5	答え 1 遣唐使の停止により大陸との直接的な交流が途絶えたことで、日本の生活や感性に合わせた独自の文化が発達した	九世紀末の遣唐使停止によって、外来の文化をそのまま模倣するのではなく、日本の風土に適した形に消化するプロセスが進みました。この時期には、漢字を崩して作られた「かな文字」が普及し、『源氏物語』や『枕草子』といった優れた女流文学が生まれたほか、貴族の住居として日本の気候に合わせた「寝殿造」が普及するなど、日本的な美意識が強く反映されるようになりました。
問6	答え 1 男性のみに課せられていた調や庸といった重い税負担を逃れるため、戸籍上で性別を偽ったから。	律令制下の税負担において、収穫した稲を納める「租」は男女共通の負担でしたが、特産物を納める「調」や、労役の代わりに布を納める「庸」は、主に成人男性に対して課せられる非常に重い負担でした。このため、負担を回避しようと、戸籍上で男性を女性として登録する「偽装」が横行しました。このような状況は、政府が戸籍に基づいて「人」に税を課す仕組みを維持することを困難にし、後の時代に「土地」を基準として課税する仕組みへと変化していく要因となりました。
問7	答え 1 坂上田村麻呂が征夷大將軍として東北地方に派遣され、支配地域を広げた	空海が唐に渡ったのは平安時代の初期である。この時期、桓武天皇の命を受けた坂上田村麻呂は、征夷大將軍として東北地方へ遠征し、胆沢城を築くなどして蝦夷（えみし）の抵抗を抑え、朝廷の支配地域を拡大した。他の選択肢について、冠位十二階は飛鳥時代、六波羅探題は鎌倉時代、武家諸法度は江戸時代の出来事であり、時期が異なる。
問8	答え 1 租・庸・調や防人などの重い負担を逃れるため、本来は男性である者を偽って女性として戸籍に登録したから。	律令制下では、成人男性に対して庸や調といった布や特産物の納入、さらに防人や兵役などの重い労働負担が課せられていました。一方で女性の負担は男性に比べて非常に軽かったため、人々はこれらの課税や兵役から逃れるために、実際には男性である子供を女性として戸籍に記載する「偽籍（ぎせき）」を行いました。10世紀に入るとこの傾向は顕著になり、戸籍が本来の人口統計としての機能を失っていたことを示しています。